

狭山ヶ丘分館 図書館だより

2024春号

図書館エレベーターホール前の

桜の木の飾りの前での一枚です。

狭山ヶ丘分館イベントのお知らせ

「みどりがいっぱい読書の木」

■4月2日（火）から5月28日（火）まで

好きな本のことをおりがみの葉っぱに書いてポストに入れてね。お預かりしたおりがみの葉っぱは狭山ヶ丘分館入口の窓にはってある木にかざります。みんなで「読書の木」を大きく育てよう！



「図書館クイズスタンプラリー」

■4月16日（火）から5月28日（火）まで

「やさしい」と「むずかしい」2種類の問題用紙があります。全問正解すると素敵なプレゼントがもらえます。チャレンジしてね！職員手作りのガチャガチャを用意してお待ちしています。

「スペシャルおはなし会」

■6月29日（土） 午前10時30分から

■場所：えほんのへや ■対象：3歳から いつもよりすこし特別なおはなし会をします。

こんなことしました。

令和6年新春（1～3月）

「かるた大会」

開催：1月9日（火） 参加者：子ども：29名

1月の恒例となっている「所沢郷土かるた」を使用した、すみれ児童館共催のかるた大会。今年は全学年混合で行い、2回戦目は1回戦目の取り札の枚数でチームを分けて行いました。会場に集まった元気いっぱいな子どもたちは、札を読み始めると一転、真剣勝負で挑んでいました。図書館職員は審判をして、集計中には紙芝居やなぞなぞの本を読み、子どもたちと楽しい時間を過ごすことができました。今年もたくさん子どもたちが参加してくれて、にぎやかで楽しいかるた大会となりました。



「絵馬に願い事を書いてみよう！」

開催：1月5日（金）～1月30日（火） 参加者：53名

おりがみの絵馬に願い事を書いて、エレベーターホール前の窓に結んでいただきました。

絵馬やペンの色を選ぶ事にも真剣で、世界に一つだけの素敵な絵馬がたくさん結ばれていました。

幅広い年齢層の方々にご参加いただけて、個性豊かな展示になりました。



「蔵書点検」

期間：2月13日（火）～2月29日（木）

長期で休館させていただいた間、図書館では蔵書点検とシステムの更新を行いました。

蔵書点検とは、図書館で所蔵している本が正しい場所にあるか、なくなっている本はないかを点検する作業のことです。

図書館の本があるべき場所にないと必要なときに提供することができなくなってしまいます。そんな事態にならないよう、年に1度、蔵書点検をしています。

快適に図書館をご利用いただけるよう努めてまいりますので、今後ともご理解とご協力をお願いします。



「大人のための工作教室」

開催：3月10日（日） 参加者：大人7名

今回の「大人のための工作教室」では、マクラメ編みでしおりを作成しました。毛糸でフリンジを作り、本体になる部分は平編みで編んでいきました。

参加された方々は、分からない所は積極的に聞いて下さったり、参加者同士で教え合ったりと、とても良い雰囲気で行うことができました。

終了後のアンケートでも、「楽しかった」など様々なお声を頂きました。ご意見等は、次回の工作教室の参考にさせていただきます。ご参加、ありがとうございました。



「利用者懇談会」

開催：3月17日（日） 参加者：5名



令和5年度利用者懇談会を開催しました。はじめに参加者の方へ、狭山ヶ丘分館の概況・1年間の活動実績などをご説明しました。その後、図書館への想いやご要望、アドバイス等、多くの貴重なご意見を頂きました。

利用者懇談会は年に一度の貴重な機会なので、図書館へのご意見ご要望等を真摯に受け止め、それを活かして改善に努めてまいります。

「初心者でもわかる俳句講座～日記俳句のすゝめ～」

開催：3月24日（日） 参加者：大人21名

今年度最後のイベントは、講師の先生をお招きして「初心者でもわかる俳句講座～日記俳句のすゝめ～」を行いました。短い時間にも関わらず、俳句の歴史や、一句読む際の注意点など、初心者向けに分かりやすく教えて頂きました。特に、俳句において重要な季語について語られた際には、改めて俳句の奥深さを知ることが出来ました。参加した方々も、先生の言葉を聞き洩らさないよう、熱心にメモを取っておられました。

今後も皆様に興味・関心を持って頂けるようなイベントを開催してまいります。ご参加お待ちしております。



図書館スタッフ おすすめ本



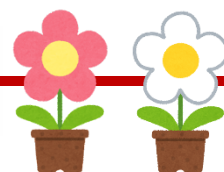
もしも俺たちが天使なら



伊岡 瞬／著 幻冬舎 請求記号：B 913.6/1

セレブからしか金を取らない詐欺師、谷川涼一。ヒモ歴10年、喧嘩は負け知らずの松岡捷。不始末で警察を追われた元刑事、染井義信。決して善人というわけではないこの3人の視点で巡る一つの事件にドキドキが止まらない！テンポの良い会話と、関わるほど闇の広がっていく事件。クールでタフな男たちがどんな手段で事件の真相を突き止めるのか、一気に読みしてしまう爽快なクライムノベルです。

クララとお日さま



カズオ・イシグロ／著 土屋政雄／訳 早川書房 請求記号：933.7/1

高度な人工知能を搭載した人型ロボットの視点で語られる、近未来的な小説。ロボットのクララは病弱な少女ジョジーと出会い、彼女を中心に家族や周りの人のそれぞれの思いを細かく汲み取りながら「人工親友」としての使命をまっとうしようと試行錯誤に日々を過ごす。クララの思いやり深い心情や、クララに対する人々の対応の細かい描写に、人工知能が急激に発展している現在の課題点でもある、ロボットと人間の違いについても深く考えさせられます。人間のエゴイズムを感じながらも温かさがあり、切なく遣る瀬無い気持ちが心に残る作品です。

図書館ねこデューイ



ヴィッキー・マイロン／著 羽田 詩津子／訳 早川書房 請求記号 645.7/マ

ある寒い晩、アメリカの小さな町にある図書館の返却ポストに、子猫が捨てられていました。子猫はデューイと名付けられ〈図書館ねこ〉として飼われることに。デューイは新聞の上に寝ころんだり、本のカートに乗ってみたり。そんなデューイの愛らしい様子は、図書館を訪れた人々を笑顔にしていたが、デューイによって最も癒されていたのは作者のヴィッキー・マイロン氏だったのではないかと、思います。マイロン氏は若い頃からアルコール依存症の夫との離婚、兄弟の死、自身の病気など波瀾万丈の人生と奮闘していました。そんなマイロン氏にそっと寄り添ったデューイは、いつしかかけがえのないパートナーとなります。【図書館ねこデューイ】は絵本もあります。そちらもオススメです。